

## 災害時の母子支援・母子保健活動について

### － 東日本大震災での周産期の母親と自治体保健師の経験から －

以下の内容は、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県七ヶ浜町の、被災時に周産期であった母親および母子保健担当保健師・栄養士へのインタビュー調査において、災害時の実際の母子支援・母子保健活動を振り返り、今後の災害時支援の参考になりうる点として抽出されたものです。母子や妊産婦の支援にあたられる方の、活動の一助になれば幸いです。

支援物資の配給	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子に関する物品は、その他の一般の物資配給とは別個の窓口で配ることができるとよい（妊婦や幼い児を連れた女性が長時間列に並ぶことは負担）</li> <li>・ミルクは小分けに配れる形態（ポーション）で準備するとよい</li> <li>・ミルクと同様に、離乳食を準備できるとよい（介護食としても転用が可能）</li> <li>・乳児用のみでなく、より年長の児のための大きいサイズのオムツまで準備できるとよい</li> <li>・幼い児のいる家庭では、より多くの生活用水を必要とする（子供は清拭や物の洗浄を必要とすることが多い）</li> <li>・物資配給は、情報提供や母子の状態把握およびサポートのためのコンタクトの機会としても重要</li> <li>・災害時母子支援に複数の部署（例：母子保健、障害療育、災害対策など）が関わっている場合は、各部署の状況や方針について情報を共有しながら支援にあたる必要がある</li> </ul>
母子に配慮した避難所運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子および育児を支援する家族用の部屋があるとよい（母乳授乳や、幼い児が泣いたり騒いだりする際にも、疲労した他の避難者とお互い気兼ねなく休める）</li> <li>・乳児を連れた母親には、ミルク用のお湯、衛生用品（清拭のための用品）および室温調節が可能な部屋が準備できるとよい</li> <li>・避難所は、医療機関の情報、妊娠に関する一般的助言、産科受診のための移動支援を提供できるとよい</li> <li>・避難生活の中で子供たちもストレスを感じてくるため、遊べる場所があるとよい</li> <li>・母親たちが集まって互いに体験を語り合う場が設けられると、心理的な自助行動につながりうる</li> </ul>
住民への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅避難をしている被災者にも留意できるとよい（避難所にいる被災者に比べ、情報や物資が行き届いていないことが多い）</li> <li>・できる限り速やかに通常の母子保健活動を再開することが有効（平時の母子支援は、母親たちにも支援者にも馴染みがある）</li> </ul>
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の専門家と地域保健師が協力することは効果的（地域保健師はその地域や住民に関する情報を持っている）</li> <li>・医師会によって作成および更新された、医療機関とその診療状況のリストを自治体が配布することは有用</li> </ul>
心理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児や幼い子供を守ろうとしたり、そのために他者とのつながりを維持しようとする母の行動を支持する</li> <li>・平時より、身軽に動けないことへの罪悪感を抱かないよう声掛けをする</li> </ul>

文責：東北大学 大学院医学系研究科 精神神経学分野

出典：Kobayashi N, et. al. International Journal of Disaster Risk Reduction. 51, 101767. 2020

DOI: 10.1016/j.ijdrr.2020.101767

